



2023年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月10日

上場会社名 株式会社CS-C 上場取引所 東
 コード番号 9258 URL <http://s-cs-c.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶原 健
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 林 宏一 TEL 03 (5730) 1110
 四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第3四半期の業績 (2022年10月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第3四半期	1,803	11.1	181	△9.2	181	△9.0	114	△1.8
2022年9月期第3四半期	1,622	16.2	199	106.8	199	101.2	116	80.2

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第3四半期	17.36	17.35
2022年9月期第3四半期	19.32	19.18

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第3四半期	2,645	2,268	85.7
2022年9月期	2,631	2,152	81.8

(参考) 自己資本 2023年9月期第3四半期 2,266百万円 2022年9月期 2,152百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年9月期	-	0.00	-		
2023年9月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の業績予想 (2022年10月1日～2023年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,516	15.3	184	△24.3	183	△24.5	99	△32.8	15.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期3Q	6,572,800株	2022年9月期	6,572,800株
② 期末自己株式数	2023年9月期3Q	一株	2022年9月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期3Q	6,572,800株	2022年9月期3Q	6,014,127株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、「かかわるC(*1)に次のステージを提供し、笑顔になっていただく」をミッションに、「マーケティング、テクノロジー、コンサルティングスキルを武器とし、ローカルビジネス(*2)の活性化を通じて、消費者に日々の楽しみを提供し、店舗、街・地域、国が活性化されている状態。」「公益資本主義(*3)の浸透により、ビジネスと社会貢献が両立する世界が確立している状態。」の2つのビジョンを掲げ、世界をよりステキに、より笑顔にすることに貢献し、たくさんの「ありがとう」を生み出し続ける会社になることを目指しております。

当第3四半期累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日）において、当社のクライアントが属するローカルビジネス業界では、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、政府による行動制限が求められなくなったことから、需要回復の動きがみられました。事前に5類への引き下げ見通しが示されていたため、春休みやゴールデンウィークにおける外出機会が増加し、多くの店舗で客足が伸びたことで、売上が回復に向かいました。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けていたグルメ業界においては、4年振りにマスク不要な環境で歓送迎会が実施できるようになり、団体利用のニーズが持ち直したことも、売上回復に繋がった要因であると考えられます。さらに、航空便の復便・増便に伴い、インバウンド（訪日外国人旅行）客も戻りつつあり、経済活動は正常化に向かう兆候がみられました。

一方で、地政学リスクの高まりにより、原材料費や光熱費、人件費などのコストが、継続的に上昇しております。価格転嫁だけではコスト上昇を補うことは困難であり、その結果、売上は増加傾向にあるものの、利益回復に至っていない店舗が多く存在し、経営的には厳しい状況が続いております。グルメ業界においては、新型コロナウイルス感染症の影響によるライフスタイルの変化もあり、遅い時間帯の需要回復は、今もなお緩慢な状態です。また、ビューティー業界においても、店舗数の増加による競争激化や、美容師の確保難による労働需給のひっ迫など、経営上のマイナス要因が解消されておりません。加えて、5類に移行し接触機会が増えたことから、第9波とも懸念される感染者数の緩やかな増加が始まっており、先行きは依然として不透明な状況です。

このような状況下で、今後ローカルビジネス業界が本格的な復活を遂げるためには、利益体質を改善し、安定的な経営を目指す必要があります。利益確保の実現には、店舗間の価格競争に巻き込まれない集客構造を構築することが重要であると考えており、そのためには、お店の独自性を際立たせ、差別化されたマーケティングを実施することが不可欠です。しかしながら、ローカルビジネス業界は中小企業が多く、ノウハウや人手が不足しやすいため、年々多様化するマーケティング手法に対応することは困難とされております。それゆえ、経営および店舗運営の効率化に繋がるマーケティングのDX(*4)化は、ローカルビジネス業界において、迅速に取り組みなければならない重要課題のひとつであると言えます。

当社の主力サービスであるSaaS型統合マーケティングツール「C-mo」は、ローカルビジネス業界の課題であるマーケティングのDX化に寄与できるサービスであると自負しており、「C-mo」の提供先を拡大することで、当社のビジョンである「店舗、街・地域、国の活性化」の実現もできるものと考えております。そのため、当第3四半期会計期間においては、提供先の更なる拡大に向け、組織体制の強化に努めてまいりました。「C-mo」契約店舗数の増加には営業部門の増員が大きく影響すると考え、2023年4月に営業職を中心に19名の新卒を採用いたしました。加えて、SNSやオウンドメディアの運用、ウェビナーの開催、イベントブースへの出展などにより、直販体制での新規顧客開拓や認知拡大に取り組んでまいりました。また、「C-mo」の提供先拡大には、直販体制の強化以外にも、アライアンス先との協力体制が重要であると考えており、アライアンス先の拡大、関係性の強化も継続して行っております。

これらの活動により、2023年6月末時点の「C-mo」の取引店舗数は4,302店舗と増加傾向にあり、MRR及びARRにつきましては以下のとおり推移いたしました。

項目	2020年9月時点	2021年9月時点	2022年9月時点	2023年6月時点
MRR(*5) (千円)	29,503	94,012	129,005	126,599
ARR(*6) (千円)	354,040	1,128,144	1,548,060	1,518,708

(注) 2020年9月期、2021年9月期及び2022年9月期の各期末の9月時点と、2023年9月期の第3四半期累計期間末の2023年6月時点の金額を集計しております。

その結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高1,803,336千円（前年同期比11.1%増）、営業利益181,389千円（同9.2%減）、経常利益181,912千円（同9.0%減）、四半期純利益114,085千円（同1.8%減）となりました。

なお、当社はローカルビジネスDX事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(*1)かかわるC

CLIENT (クライアント)、COUNTRY・COMMUNITY (国・地域)、CONSUMER (消費者)、CHILDREN (子供) の5つを指す。

(*2)ローカルビジネス

個人事業主や中小企業を中心とした、地域に根付いた店舗ビジネスの総称で、グルメ・ビューティー・トラベル等のジャンルがある。

(*3)公益資本主義

世の中の不均等を是正することを目的とし、会社経営で得た利益の一部を社会の課題解決へ再配分するという考え方。

(*4)DX

デジタルトランスフォーメーション (Digital Transformation) の略。企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革すると共に、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること。

(*5)MRR (Monthly Recurring Revenue)

対象月の月末時点における顧客との契約において定められたID単位で毎月課金される月額利用料の合計金額。

(*6)ARR (Annual Recurring Revenue)

該当月のMRRを12倍して算出

(2) 財政状態の状況

(資 産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は、前事業年度末に比べ55,651千円減少し、2,141,506千円となりました。これは主に、現金及び預金が36,689千円、前払費用が11,574千円減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における固定資産は、前事業年度末に比べ70,291千円増加し、504,453千円となりました。これは主に、「C-mo」の開発に係るソフトウェアが26,749千円、ソフトウェア仮勘定が46,686千円増加したことによるものであります。

上記の結果として、総資産は2,645,960千円となり、前事業年度末に比べ14,639千円増加いたしました。

(負 債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は、前事業年度末に比べ93,927千円減少し、370,144千円となりました。これは主に、未払金が91,228千円、未払法人税等が59,497千円、未払消費税等が19,953千円減少する一方で、買掛金が18,025千円、賞与引当金が54,350千円増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における固定負債は、前事業年度末に比べ7,497千円減少し、7,517千円となりました。これは長期借入金7,497千円減少したことによるものであります。

上記の結果として、総負債は377,661千円となり、前事業年度末に比べ101,424千円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ116,063千円増加し、2,268,298千円となりました。これは主に、四半期純利益114,085千円を計上したことによる利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年9月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症による影響は軽微と想定しておりますが、コスト上昇や労働需給のひっ迫等により先行きの不透明感が強まっている状況を踏まえて、2022年11月14日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想を据え置いております。

今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,022,533	1,985,843
売掛金	132,557	130,886
前払費用	41,565	29,990
その他	10,485	8,592
貸倒引当金	△9,983	△13,806
流動資産合計	2,197,158	2,141,506
固定資産		
有形固定資産		
建物	32,614	32,614
減価償却累計額	△9,017	△10,782
建物(純額)	23,597	21,831
工具、器具及び備品	9,529	9,806
減価償却累計額	△6,983	△7,609
工具、器具及び備品(純額)	2,545	2,196
有形固定資産合計	26,142	24,028
無形固定資産		
ソフトウェア	222,531	249,281
ソフトウェア仮勘定	26,488	73,174
無形固定資産合計	249,020	322,456
投資その他の資産		
敷金及び保証金	65,926	64,806
役員及び従業員に対する長期貸付金	4,853	3,507
繰延税金資産	35,989	37,423
その他	52,231	52,231
投資その他の資産合計	158,999	157,968
固定資産合計	434,162	504,453
資産合計	2,631,321	2,645,960

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	34,085	52,111
1年内返済予定の長期借入金	9,996	9,996
未払金	222,768	131,540
未払法人税等	86,491	26,994
未払消費税等	40,592	20,639
契約負債	60,530	64,690
預り金	4,090	3,366
賞与引当金	—	54,350
その他	5,515	6,455
流動負債合計	464,071	370,144
固定負債		
長期借入金	15,014	7,517
固定負債合計	15,014	7,517
負債合計	479,085	377,661
純資産の部		
株主資本		
資本金	758,185	758,185
資本剰余金	758,241	758,241
利益剰余金	635,808	749,894
株主資本合計	2,152,235	2,266,320
新株予約権	—	1,977
純資産合計	2,152,235	2,268,298
負債純資産合計	2,631,321	2,645,960

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,622,567	1,803,336
売上原価	512,318	632,441
売上総利益	1,110,248	1,170,895
販売費及び一般管理費	910,390	989,505
営業利益	199,858	181,389
営業外収益		
販売協賛金	110	118
助成金収入	—	240
その他	151	427
営業外収益合計	261	786
営業外費用		
支払利息	317	263
営業外費用合計	317	263
経常利益	199,802	181,912
特別利益		
新株予約権戻入益	1,400	—
特別利益合計	1,400	—
税引前四半期純利益	201,202	181,912
法人税、住民税及び事業税	92,481	69,260
法人税等調整額	△7,503	△1,433
法人税等合計	84,978	67,826
四半期純利益	116,223	114,085

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

当社は、ローカルビジネスDX事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

当社は、ローカルビジネスDX事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。